



介護・介助における安全確認を徹底しよう！

ボランティア連絡会開かれる



安佐南区ボランティア連絡会は3月23日(月)10時から福祉センター会議室で連絡会議を開催しました。

グループの近況報告、災害支援活動、年度の活動全般を振り返りながら27年度に向けて課題を意見交換されました。

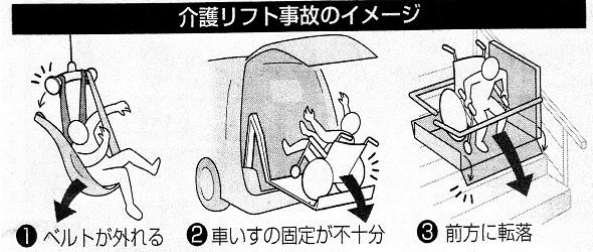
ボランティアまつりは継続開催の意見が大勢で「あさみなみ元気づけ隊」「つなぐプロジェクト」に目途や参画のあり方の提起がありました。

本日の論議を参考に役員で検討を深め、5月の総会で改めて提案されます。

当会からは永中副会長が出席しました。

【御礼】早いもので3月・年度末号となりました。夏に思いがけない災害に見舞われ、うさぎ号利用者、うさぎ会メンバー、当地の多くの皆さまが被災されました。内心、会報の発行はもとより、うさぎ会の活動が停止するのではないかと心配しましたが、会長を先頭に利用者にも被災者にも可能な限り応えとの決意表明。被災地をまさしくピョンピョン駆け巡り本領を発揮、応援の方々や地域の皆さまと一緒に前に前に進む姿を何としても記録したいと、撮り・書き続けました。ページ数は縮小するも毎月リレー寄稿を繋げてくださった会員皆さまのご協力、心労の最中の執筆、記事提供に心より感謝を申し上げます。被災された皆様の一日も早い平穏をお祈りいたしますと共に新年度も会員皆さまの一層のご協力をお願いいたします。(丸)

うさぎ会 安全運転管理者 安全情報



車いすやベッドから介護リフトを使って移動する際に転落させてしまう事故が相次ぎ、2014年までの10年間に4人が死亡、24人が重軽傷したと報じられています。

シートでくるんでつり上げ、ベッドや浴槽に移動するタイプでの事故が多く、車いすごと車両に乗せるリフトでの死亡事故も発生しています。

主に誤った使用方法が原因でベルトが外れ転落、リフトのフラッパーが開き車いすごと転落したとみられ、業界団体は正しい使い方を呼び掛けています。

日本福祉用具・生活支援用具協会は(1)使用前の機器点検(2)ベルトがリフトのフックにきちんとかかっているか確認(3)車いすがリフトに固定されているか確認——などを徹底するよう求めています。(共同通信)



うさぎ号はフラッパーが閉じないとリフトは昇降しませんが、車いす側の転倒防止装置が適正な状態にあることやブレーキロックの確認、リフト昇降時には必ずハンドブレーキを持ってサポートする、車いすのタイプや利用者の症状に応じて固定ベルトを使用することを励行し事故の未然防止に努めましょう。

永中憲成



転倒防止バー

イラストは中国新聞から転載